

第1回 いわき市復旧・復興計画検討委員会 議事要旨

I 開催日時：平成23年 9月16日（金）13：30～16：30
（委嘱状交付式 13:30～14:00、第1回会議 14:00～16:30）

II 開催場所：東分庁舎5階会議室

III 出席者

1 検討市民委員会委員（五十音順、敬称略）

職 名 等		氏 名	出欠
いわき地区商工会連絡協議会	会長	猪狩 正明	出席
東日本国際大学	福祉環境学部 教授	遠藤 寿海	出席
いわき観光まちづくりビューロー	理事	小井戸 英典	欠席
いわき市農業協同組合	経営委員会会長	甲高 光	出席
社会福祉法人いわき市社会福祉協議会	常務理事	強口 暢子	欠席
福島工業高等専門学校	建設環境工学科 准教授	齊藤 充弘	出席
いわき女性交流ネットワーク	代表	園部 早由里	出席
いわき商工会議所	議員	武田 友紀	出席
いわき市森林組合	代表理事組合長	根本 藏	欠席
福島県漁業協同組合連合会	代表理事会長	野崎 哲	出席
いわき市PTA連絡協議会	母親委員会委員長	芳賀 敦子	出席
いわき明星大学	科学技術学部 教授	東 之弘	欠席
社団法人いわき市医師会	副会長	松崎 博光	欠席
いわき地域環境科学会	事務局長	山田 貴浩	出席
社団法人いわき青年会議所	ランドデザイン策定特別会議議長	渡辺 大輔	出席
いわき市行政嘱託員（区長）連絡協議会	会長	渡邊 俊克	出席

2 事務局出席者

職 名 等		氏 名	
市長		渡辺 敬夫	
副市長		伊東 正晃	
行政経営部	部長	大和田 正人	
	復興監	前田 直樹	
	次長	阿部 直美	
	次長	佐藤 克房	
	行政経営課長	鈴木 善明	
	復興支援室長	園部 衛	
	危機管理課長	緑川 伸幸	
	行政経営課	係長	木田 努
		主査	山形 裕之
		主査	正木 淳
復興支援室	主任主査	寺島 範行	

IV 次第

○ 委嘱状並びに辞令交付式

○ 第1回会議

1 開会

2 委員紹介

3 説明

- 復旧・復興計画検討委員会の設置について、
- 復旧・復興計画策定の進め方について

4 委員長・副委員長選任

5 議事

- 会議の公開等について
- 議事録の署名について
- 東日本大震災における本市の被害状況等について
- 「東日本大震災からの復旧・復興に向けた基本的な考え方」について
- 「いわき市復興ビジョンへの提言（素案）」について
- 今後のスケジュール（案）について
- 意見交換

6 その他

7 閉会

V 主な内容

(1) 委員長、副委員長選任

委員長に「福島工業高等専門学校 齊藤充弘委員」を、副委員長に「いわき地区商工会連絡協議会 猪狩正明委員」を、それぞれ選任した。

(2) 会議の公開等について

会議については、原則として公開することとし、議事要旨を公表することとなった。

(3) 議事録の署名について

議事録の署名については、委員数が16名であり、毎回、全員の署名を行うと議事録の公開が遅れることとなるので、持ち回りで、委員2名が責任を持ち、署名することとなった。

(4) 意見交換等について

<質疑>

(委員) 3月11日の震災時は、鮫川を走行中であった。津波に対する意識が低かった。市としては、当時の市民の行動意識はつかんでいるのか。本市は、温暖・温泉・魅力があり、バブル時に住みやすい地域とされていた。(いわき・瀬戸内・東海地方)住みやすい、くらしやすいとしても、そこには雇用と観光がなければ、まちの発展につながらないと思う。市復興ビジョンの策定において、そういった意見はあったか。

(事務局) 平成21年のハザードマップ策定の際、ワークショップを行うなど、市民と一緒に作成した。豊間保育園などは、日頃の訓練もあり、避難して助かった事例もある。日頃の危機意識が肝要であると再認識した。

(事務局) 経済状況も厳しく、雇用の創出、交流人口の拡大などを通じて、いわきの魅力創出が必要である。再生可能エネルギーを活用し、小名浜港をシンボルとした復興をしていく必要がある。風評被害の払拭も必要である。

(委員) 「目的2」は「復旧・復興」に向けて根本的な対策か。

(事務局) 「復興」の捉え方、経済の育成から復興へ結びつける。新たな取り組みも入れて、相対的に震災前よりも活力あるまちづくりを行っていきたい。(人口減少問題もある。人口の層の問題はあるがいわきは人口が増えている。)

(委員) 広域多核都市がデメリットになるのではないか。検討委員会の議事録はHPで拝見した。「復興センター」については、どこで具体的に対応していくのか。(具体的にどのように考えているのか)

(事務局) 目的②については、後期基本計画の中でも捉えているものである。引き続き復興計画に反映してまいりたい。市民委員会における意見を予算化へつなげられるように取り組んでまいりたい。各部局とのやりとりについても行う。

(委員) 市民ビジョン(案)について、市長の個別具体的な意見等はないのか。

- ・風評被害は、報道にも原因がある。市の姿勢が見えない。
- ・まずは復旧であり、それから新しい戦略を練るべきであるが、相当時間がかかるだろう。(新しいものを考えるべきである。セシウムをにごり水等でとるとか)
- ・人口は増えている。アパートはもうない状況である。(一時的なものであろうが)

(委員長) 総花的にビジョンはなっているが、具体的な取り組みは、有識者による検討委員会から、この市民委員会での検討に委ねられたものである。

(委員) ビジョンは、国・県と整合をとったものであろうが、できるだけ紐解いて説明をすべきである。まずは、復旧であろう。チェルノブイリやスリーマイルの際の、産業再生の事例なども参考になるのではないか。

(委員) 先に資料を送っていただいた方がよかった。(素案)の議論に時間をかけるべき。海、自然、温泉があるが、いずれも風評被害を受けている。湯本温泉は原子力作業員に頼っているが、その先はどうするのが課題である。フクシマに来てもらえるように、ピカーのものを打ち出さないといけない。是非、いわきオリジナルを作成すべきである。

(委員) 元のいわきに戻して欲しい。

サンシャインいわきを絡めるなど、「いわきらしさ」をもう一度考えてみるべきである。若い人たちが、将来希望を持てるようにすべきである。ふるさとが「いわき」でよかったと思えるようにすべきである。

(委員) がれきの処理も含めて何故、こんなに復旧が遅いのか。除染対策も不十分である。

(委員) いわきも浜・まち・山に分かれている。被害も違う。復旧のターゲットが多岐にわたりまとめるのは大変であると思う。

どうやって元のいわきに戻すのか、横断的に対応すべきである。

放射線(除染作業)の費用はどうするのか。具体化する的是は大変ではないか。

(委員) 阪神淡路大震災を教訓とすべきである。行政・経済界がタイアップすべきである。復興はとんでもない考えを出すべきであり、民間の力を活用した「復興センター」をつくるべきであると考える。

国・県の方針との整合性を図る必要であり、目玉事業を打ち出し、「オールいわき」をはっきりさせるべきである。

(委員) 予算化につなげ、具体的な事業化を図るかが肝要である。どのようにして、市民の力(NPOも含めて)を引き出すのか。行政、政治に無関心な方々を引き込む方策も必要である。

6ヶ月も経過し、支援してきた人を支援するしくみが必要である。

(委員) 川崎の公務員宿舎は、いわきナンバーであふれているという。避難されている人もいわきに帰りたい人が多い。また、会津に避難している人で、いわきに来たい人が多くいる。帰れない方もいる。いわきに受け入れる姿勢も色濃く打ち出していくべきである。

(委員長) あのような状況にしたいくない一心で当職を努めている。
法律の壁、住民の多様な声の壁など様々あるが、各界各層の知恵を出して乗り越えたい。
今回の根底には、亡くなられた方への鎮魂の想いや無念さを汲み取り、今後を考えるのが、生きている人の役目である。

(委員) 錦の方でも沿岸域の被害はあったが復興の検討は行っているのか。

(事務局) 被災沿岸域の土地利用などの復興については、作業部会にて別途検討している。

(委員) あまり認知されていないが、放射線の状況を把握するためのコールセンターがあるのか。

(事務局) 専門的であるため、市職員での対応は厳しい。国・県のコールセンターがあり、そこで相談できる。

(委員) 事故件数は少ない。文部科学省も暫定値である。マップを作成するなど必要ではないか。

(委員) 放射線対策として、市としてどのようにするのか。いわきのスタンスを示すべきである。

(事務局) 一定基準 ($0.3 \mu\text{S/h}$) を目安に7月から除染に着手した。